

令和2年7月

第1回白山市総合教育会議

会 議 録

白 山 市

# 令和2年度 第1回 白山市総合教育会議

日 時 令和2年7月28日(火) 午後4時

場 所 白山市役所4階 402会議室

## 1 開 会

## 2 市長あいさつ

## 3 協議事項

- (1) 「GIGAスクール構想」における今後のICT機器を活用した授業及び指導体制の充実について
- (2) 令和4年度以降の成人式の対象年齢や実施時期等について
- (3) その他

## 4 閉 会

## 出席委員

|             |         |
|-------------|---------|
| 白山市長        | 山 田 憲 昭 |
| 白山市教育長      | 松 井 毅   |
| 白山市教育長職務代理者 | 北 田 朋 幸 |
| 白山市教育委員     | 竹 内 千恵子 |
| 白山市教育委員     | 小 寺 正 彦 |
| 白山市教育委員     | 尾 張 勝 也 |
| 白山市教育委員     | 安 川 薫   |

---

## 事務局出席職員

|           |         |
|-----------|---------|
| 教育部長      | 毛 利 文 昭 |
| 次長兼学校教育課長 | 山 内 満 弘 |
| 教育総務課長    | 米 木 伸 一 |
| 学校指導課長    | 日 向 正 志 |
| 学校指導課担当課長 | 木 下 貴 博 |
| 生涯学習課長    | 重 吉 聡   |
| 子ども相談室長   | 川 上 照 子 |
| 松任図書館長    | 中 村 泰 広 |
| 教育総務課長補佐  | 河 奥 裕 子 |
| 教育総務課係長   | 絹 川 幸 代 |

---

傍聴者 2名

## 開会 午後 4時00分

### ○教育総務課長（米木 伸一）

定刻になりましたので、ただいまより令和2年度第1回白山市総合教育会議を開催いたします。本日の会議につきましては、飛散防止のため着座にて発言の方をさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

---

### ◎市長挨拶

### ○教育総務課長（米木 伸一）

開会にあたりまして、山田市長からご挨拶をお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

### ○市長（山田 憲昭）

本日は、令和2年度第1回白山市総合教育会議を開催いたしましたところ、委員の皆様方にはお忙しい中、ご出席をいただき、誠にありがとうございます。

また、皆様方には、平素から白山市の教育の充実、発展のために、多大なご尽力を賜っておりますことを、心から感謝申し上げます。

はじめに、昨年11月に中国武漢市において発生した「新型コロナウイルス」の感染は、瞬く間に世界中に拡大いたしました。本市におきましても、28名の方の感染が確認されましたが、5月2日以降、新規の感染者は発生しておりません。学校の対応については、早期の休業と万全な体制での再開により、子どもたちへの感染が無かったことを幸いに思います。教育委員会現場各位のご努力に感謝申し上げます。

ただ、都市部を中心に感染者が増え、県内においても、7月に入り13名の感染者も発生するなど、感染拡大の「第2波」の到来が現実味を帯びております。

今後とも、子どもたちが安全安心に教育を受けられるよう、引き続き緊張感を持って感染防止にあたりたいと考えておりますので、よろしくおねがいします。

このような中、子どもたちの心身の健康と安全を第一に考え、学習時間の確保

に努めるとともに、再び臨時休業となった場合にも子どもたちの学びを保障するため国の「GIGAスクール構想」に基づき、市内の小中学校にタブレット端末を今年度中に整備ならびに運用準備をいたし、来年度から始動していくことといたしております。

また、変化の激しい時代を生き抜くためには従来の教育に加え、創造性を育む教育の実現が重要であり、ICTを活用しながらしっかりと対応してまいりたいと考えております。

本日の第1回の会議では、この「GIGAスクール構想における今後のICT機器を活用した授業及び指導体制の充実について」、そして、「令和4年度以降の成人式の対象年齢や実施時期等について」をテーマに意見交換をいただきたいと思っておりますので、委員の皆様には、忌憚のないご意見を賜りたいと思っております。

どうぞよろしく申し上げます。

#### ○教育総務課長（米木 伸一）

ありがとうございました。

これより協議事項に移りたいと思っております。議事の進行方につきましては、主宰者であります市長にお願いしたいと思っております。それでは、市長よろしくお願いいいたします。

---

#### ◎協議事項

#### ○市長（山田 憲昭）

それでは、本日の会議は公開ということですのでよろしいですね。

では、協議事項に入ります。本日の議題は二つあります。

一つ目は、「GIGAスクール構想における今後のICT機器を活用した授業及び指導体制の充実」について、二つ目は、「令和4年度以降の成人式の対象年齢や実施時期等」についてであります。

まず、協議事項（1）「GIGAスクール構想における今後のICT機器を活用した授業及び指導体制の充実」について事務局より説明をお願いいたします。

○教育指導課長（日向 正志）

（資料にて説明、DVD視聴）

---

◎意見交換

○市長（山田 憲昭）

ただ今、事務局からの説明と現状をDVDで見させていただきました。

このことについて、教育委員さんからご意見を伺いながら進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

安川委員さんから、お願いします。

○教育委員（安川 薫）

我々の時と想像がつかないというか、文章を読んだときは分かったような分からなかったようなところが、動画を見てとてもよく分かりました。これから何が求められていくかというのが分からない。教育の授業の内容とかそういうところとあわせてなんですけれど、論点がずれてて申し訳ないのですけれど、子どもたちの生活の習慣というものを、例えば朝の登校時に子どもたちが朝ごはんは何を食べてきたかとか、何時に起きた、昨日何時に寝たとかそういう生活習慣というものを入力することである種の統計がとれるのかなど。そういう活用もできるのではないかと思いました。そういうところも併せて、学校だけではなくて家族・地域一丸となって取り組んでいけるようなところにも大きく役立てることができるのではないかなと感じました。

○市長（山田 憲昭）

ありがとうございました。尾張委員さんよろしくお願いします。

○教育委員（尾張 勝也）

GIGAスクールとかICTについての細かいことは、私はあまり言えませんが、このコロナで今まで私たちが、みんなが、世の中が思ってきたベクトル

があったとしたら、このベクトルっていうのがみんなの幸せに繋がるのではないかなと思っていました。それが、根本的に揺らいだとか見えなくなったとか、今までそれがいいと思っていたことが「えっ」、当たり前だと思っていたことが「えっ」ということがあまりにも多すぎます。

いろんな本にも書かれています、タブレットを使って情報収集も大事だし、一人ひとりの子を大事にすることも大事なんです、同時にこれと同じくらい、もっと基本的な部分で私らとか、人間とか、人類とか何か考えなければと。

このままでいいのかなという思いがあり、こういうことを進める一方で、私は特に自然の方に関わっているので白山市にいるから尚更、人間と自然ということとか、はっきりいうとタブレットにしてもGIGAスクールにしても一番心配しているのはエネルギーをたくさん使うことを心配しています。

今エネルギーが当たり前に使えることが前提だけど、では電気が使えなくなったらどうなるの？何とかなるでしょうではなくて、コロナで分かったことは今まで当たり前、絶対大丈夫だと思っていたことすらが生きていると今まであったものが無くなるようなことが起こる。その時に、適応していけるのかということ考えたときに、あまりにもエネルギーを消費するようなことをするのは、私はちょっと違うんじゃないかなと思っています。ですから、その辺のバランスを考えながらも一回言います。ICTも大事だけでも、もっと低エネルギーで原則的なそういう部分についても、もっともっと今まで以上に、このコロナで思い知らされたとか、私はやらなければならないと思っています。

#### ○市長(山田 憲昭)

ありがとうございました。では次に小寺委員お願いします。

#### ○教育委員(小寺 正彦)

私が思ったのは、私が子どもの頃にコロナのこういう時期を迎えたら学ぶ権利が失われていたかもしれませぬ。けれども今の時代はICT、パソコン等を使うことによって遠隔的に学ぶことができる。教育を受ける権利が守られるという事が本当に素晴らしいなと思ったわけです。

我々の時は教科書とノートがあれば勉強ができたけれども、今は違う。新しい教育を求めるためにはタブレットを全員が持つことによってどこにいても、例えば病室にいても勉強ができるということがすばらしいことや、とつくづく思ったわけです。

もう一つは、先生方の働き方改革です。まだ、ほとんどの先生がパソコンに慣れていないんだけど、パソコン等を使う、ソフトを入れることによって、事務処理や雑用的なことが大分楽になっていくのではないかなと思います。働き方改革により、子どもたちを教えるのに時間を割くことができ、また家族との時間を先生方も大切にできるのではないかなと思ったわけです。

ただ、これに慣れるまでに三カ月や半年でできるわけないと思いますし、1年・2年・3年と長い年数を経て初めて指導する先生方ができるようになります。また、先生方を指導していただける方に、ICTを利用する民間の方でもいいですし、作られた方から学ぶということも先生にとっては必要ではないかなと思います。市として、先生方に必要となるICT活用指導力とそれを身につけるための研修の機会を増やしていただきたいなと思います。以上でございます。

#### ○市長(山田 憲昭)

ありがとうございました。それでは竹内委員お願いします。

#### ○委員(竹内 千恵子)

まずもって準備いただきました事務局の皆様にお礼申し上げます。私共は新聞等で色々話は聞いているのですが、やはり「Seeing is believing」「百聞は一見に如かず」ということで今回こういう機会を頂いたという事で大変嬉しく思っております。

この動画を見まして子どもたちが文部科学省もですし、白山市の動画もそうですけど子どもたちがどの子も笑顔で、笑顔の子ばかりだったのか、笑顔の子だけ撮ったのかちょっと分かりませんが、それが大変印象に残っております。授業が退屈で寝ているというような状況ではなかったなと思いました。

それからもう1点は、物おじしない態度っていうんですかね。これまでやは



り性格的に人前で喋ろうとしたり、隣の子と相談するとき物おじするような児童生徒が多々見られましたけれども、今回の白山市の動画を見ても、そういう様子があまり見られなくてみんな堂々と自分の意見を言っているなという感じがいたしました。これは多分、自分の意見だから言えるんだろうと思います。何か知識を暗記して喋るとかそういうことだったらやはり性格が出たり、手が遅いとか、学びが遅いとか差が出てくるとと思いますが、自分の意見をしっかり言えて物おじしないというのはやはりICTの力というのは大きいなというような印象を今回持ちました。

私はこのICTについては、上手く使っていただきたいと思います。例えば、今回いただきましたこの資料の一番下に「学校の壁を越えた学習」とあります。これまでやはり、私は大都市と過疎地では地域差というものがあったと思います。教員の力量に左右される教育というのはやっぱり大きかったと思いますが、ICTを使うことによってその差はどんどんどんどん無くなっていくのではないかなと思います。

ですから、本市のように石川県で一番広い面積を持っている、いろんな所に学校があるところはICTを上手く使って、これからの子どもたちに学びを保障していただきたいというのが思いであります。

それから、先ほど小寺さんも言われましたが、働き方改革ということでもQRコードを有効に使ったり、あるいはアプリを入れることによって先生方の教材研究、あるいは同じものを模造紙に書いて貼り付けるとか、そういうような仕事はかなり減るのではないかなと思いました。ですから、そういう面でも先生方には有効に使っていただければいいかなと思っております。ただやはり、心配されることは、今度は先生方の力量で上手に使える先生、あるいは全く使えない先生、多分子どもたちの方が習得が早いんじゃないか、持たせたら自分でいろんなことをやっていくんじゃないか。そういう時に、大きな差にならないように先生方には、教育委員会が中心になってきちんとしたグランド・デザインといいますか、こういうことをやりたいんだということを、勉強していただいて、先ほど市長さんから来年度からというようなお話でしたけれども、もうその計画に着手していただいて、教員によってあまり差のないような教育ができて、先生方の働き方改革に繋がって行けばいいかなと思っております。

以上でございます。

○市長(山田 憲昭)

ありがとうございました。それでは北田委員お願いします。

○委員(北田 朋幸)

I C Tの活用についてなんですが、私もこれを見ていて今までは一斉授業で先生が言った話についていける子と、ついていけない子の差というものがどうしても出てきました。しかし、個別の学びができるようになると、今まで何で子どもたちはゲームが楽しくて学校の授業がつまらないかを考えたときに、ゲームはリアルタイムで結果が出るんです。このI C T教育のデジタル教材とかドリルソフトに関しても、リアルでここが間違っているよといってもらえるところが子どもにとってはありがたい話で、先生の話聞き洩らしてしまうと分からなくなる部分が、I C Tを使うとゆっくり自分のペースで学んでいく事ができるのではないかなと期待をしております。

ただ困るのが、あまりにもデジタルソフトに頼り過ぎて先生と児童とのコミュニケーションが疎かになってもらっては困る。やはり、先生方の個性を活かした中で、子どもたちも先生とコミュニケーションがあって初めて教育が成り立つと思っていますので、その辺が上手く使いこなせてデジタルの部分と人間的な部分と両方で上手く子どもたちを育てていけたらいいなと思います。

そのためには、先生自身が上手く使いこなせないと思うので、ドリルソフトなりデジタル教材に頼り切ってしまうようではダメなので、今年度中に習得していただいて、来年度からスタートよく切れればいいんですけど、それも大変なことなのかなと感じております。

学校というのは児童生徒と教師のコミュニケーションを上手くとっていく事によって子どもの学習能力が上がるのと、やはり子どもが学習意欲を出すには人と人とのつながりを忘れてはいけないということ。あとは竹内さんが言われたように、学校の壁を越えた過疎地と中心地の学校の児童生徒がリアルタイムで同じ授業をみんなで見られるようになれば一番楽しみだと思います。

ただ、山ろくの方では学年で1人か2人しかいない。1人・2人の意見では

なく、30人・40人の意見が聞ける、そういう授業が早く出来たらいいなと思います。

以上でございます。

**○市長(山田 憲昭)**

ありがとうございました。

**○委員(竹内 千恵子)**

すみません。一つ付け加えさせてください。私も北田さんや尾張さんの意見に付け足すわけではないんですけれども、やはりやることと同時にICTの限界というかAIロボットが東大に入れるかという研究で、今のところ中断して難しいということが分かったと。やはり、人間でないといけないというような事、人間でないとできないという事が分かったという事は、大事なことだろうと思います。

特に、尾張さんのお話のように、白山市は自然の環境とか人とのつながりとかこういうものは大事にしなければいけない。

これだけ社会の変化のスピードが速いので、今役に立っていることが子どもたちが社会に出たときに役に立つのか。やはりそういうことも考えて、子どもに任せるところは任せるとか、本市が大事にしている読書とか自然体験とかも併せて、人とのつながりも併せてトータル的にいい人間を育てていただきたいなと思います。

**○市長(山田 憲昭)**

ありがとうございました。それでは教育長お願いします。

**○教育長(松井 毅)**

パソコン、タブレットこれが一人1台で今からやっていくということなんですけれども、私が心配しているのは竹内委員さん、小寺委員さんからもお話がありましたように、先生方をどう指導していくのか、しっかり使いこなしていけるのかそこが不安です。

先生の中にはI T関係に詳しい方もいるんですけども、ベテランの先生の中にはI T機器が苦手という意識を持っている方もおいでるようです。

昨年、学校訪問した際、授業で使っているのはやはり若手の先生のクラスでした。ですから、子どもたちはそれなりに上手く使うと思うんですけども、やはり先生方がまず使いこなせるようにしていきたい。してほしいなと思っております。それこそ、文房具のように当たり前のように使いこなせるようにしていきたいなと思っております。

この夏から、パソコンの双方向授業の研修会、あるいはプログラミング研修、実践授業を実施しながら先生方のスキルアップも図りたいと考えております。先生方にはぜひ日常的に使えるようにしてほしい、この辺を心配しています。授業の中でもパソコン支援員がおいでたり、あるいは小寺さんからもお話がありましたけれども、市民の中でI T関連の企業を退職したような人でI Tサポート・スタッフこういった形で入ってもらったりしながら、やっていかなければと思っております。とにかく今、学校はこういったいろんなことが多く入ってきているわけでございます。

先ほど働き方改革というお話もありました、その中でプログラミング、英語、I T教育が津波のように入っています。さらに来年は校務支援システムを入れたいと思っております。これで働き方改革になるのかなと。ひょっとしたらこれがまた慣れるまで時間がかかって逆になるようなことにならないか、そういう心配もしております。ですからやはり、学校というのはいろんな地域の人たち、民間の人たちの力を借りながら学校を支えて行かなければならないのかな、そんな時に来ているのかなと思っております。

学校の授業ですが、これも形が変わってくるのかなと。パソコンを入れることで家でも勉強ができるんです。先ほどお話がありましたように、教科書のQRコードとか、家のタブレット、パソコンで十分読み取れる。一人で勉強できるんです。ですから、今までの復習中心の勉強から予習中心になって、そして学校では分からないこと、あるいは質問したいことそういったことを聞く、そんな授業になって行くのではないかと考えております。

それから、今ほど竹内さんが話されたA Iはおっしゃるとおりです。子どもたちに知識を与える、それはA Iとか十分できると思うのですが、では子ども

たちを勇気づけたり、或いは元気づけたり、後から押してあげる、そういったことはAIはできない。やはりこれは教員の仕事というか、教師がすべきことであり、AIにはおのずと限界があると思っています。以上です。

#### ○市長(山田 憲昭)

ありがとうございました。他に発言がありましたら。——— 無いですか。

では、私の方から、世の中の変化と言うのはいろんなところで起きるのかと思います。それが人によるもの、よらないものがありますけれども、コロナというものも世の中を変えるという一因になっているのかなと思います。

今般のコロナにより、ICTを使うと人が移動しなくても会議等ができることが分かってきた。学校の休業ということを考えてみますと、やはりICT化して整えていくことも必要になってくる。ただ、現場の戸惑いは結構あるのだらうと思います。白山市はできれば12月までに入れたい。そのことによって1月から練習を重ねて、混乱することなく来年度から本格的にスタートしていきたい。他市町から見れば少しスタートが早くなるのかなということです。また、少しずつ試行していくうえで課題が見つければ支援システムを早く取り入れていく。

これは躊躇なくやらないと遅れると後回しになってくるので、できるだけ早め早めに慣れていくように整えていければと思います。

ですから学校の先生が必要としている内容やシステムを、マンパワーで積極的に進めていき、何となく始まったとならないようにしたいと思います。

いずれにしても、学校は「face to face」、それが一番であり、その精神をこのICTとどう併せていくのか、これが一番の課題になると思います。

そのためには、早くタブレットに慣れていかなければならない。これが追われてばかりいたら厄介者が入ってきただけになる。

#### ○委員(竹内 千恵子)

そういう意味では、白山市はエアコンの時に思ったのですが、エアコンを早めに前倒しをしながら入れていただいたという事が、たまたまこのコロナの時に夏休みの授業が確保できたと。やはり教育というのは、先見性を持って早め

にして、ダメだったらまた変えればいいので、本当に先見性を持ってやらなければならないと思いました。

アメリカで授業をしていた私の知人が言うには、アメリカではみんなタブレットを持って来る。タブレットがdeviceなんだということです。だからその先生は資料もタブレットで渡したらダメですかと言うんですが、日本ではやはり、まだ紙に印刷して渡すんだと話をしていたのですが、やはり世界的な視野というものも考えて白山市の教育も考えてやりたいなと思います。

この子たちが20年後にどんなところでどんな仕事をしているか分からないので、世界的な視野で世の中がどんなふうに動いているのかというような視点も考えながら、子どもたちに良い教育ができたらいいなというのが教育委員としての願いです。

#### ○市長(山田 憲昭)

エアコンの場合は、教育の機会均等ということで教育環境をしっかりと整えますという大前提があったので、入っていないところを解消する。それに向かって行ったということです。今このICT化の中で大きいところと小さいところが機会均等で交流し合えるとか、そういったことを考えるとこれもエアコン的発想でいえば機会均等に繋がって行くということです。

#### ○教育長職務代理人(北田 朋幸)

今年は、コロナで緊急事態となったわけですが来年、再来年に違うウイルスが出たときに同じようなことがあるという事で、これが上手く活用できていれば家にいながらリモートで授業が受けられるということになれば授業日数の確保にも繋がって来るので、早く実用化されると良い。

#### ○市長(山田 憲昭)

国の補助を活用して、市としてもタブレットを活用して教育を行うという環境を整えていきたい。教育長が言われたように、復習型から予習型へやろうと思えばどんどんやれる。子どもの興味がどんどん発展していく可能性もある。

個性を伸ばすことにも繋がると思います。

**○委員（竹内 千恵子）**

均一の教育をしていたのが、とんがった子を作るみたいな、いろんなところに出ていくというのは、いろんな子にいろんな場があるのはいい事だと思います。

**○市長（山田 憲昭）**

小学校1年から中学校3年の期間に、タブレットを9年間使ったらどういうことになるのか。大変多くの情報量が入る事になる。その中で、尾張さんの言うような自然活動とか、外に出て植物を調べたりすることに活用するなど、全てにおいてタブレットを使うことになれば大変有意である。

**○教育委員（尾張 勝也）**

竹内さんが言われたように、先見性というか、例えばタイピングの練習というタイピングはいつまでするのか。音声入力をもっとすごくなって来たらタイピングの必要が無くなって来るのではないかなとか思います。

皆さんは私を自然の人やと思っていると思うのですが、昔はパソコンが好きで大学の時から自分でプログラムして、三十何年前に自分のマイコンといわれたものをクラスに持ち込んで一人ひとりのデータを打ち込んでいました。

多分日本でも先進的にやっていたくらい私はゲームオタクやし、だからICTとかの素晴らしさはものすごく分かっているつもりです。だから尚更、パソコンが入った時に、いろんな事務処理が楽になって、私らは楽ができる。時間に余裕ができる。と思っていたのに結果尚更、道具に振り回されて、洗濯機とかも全部そうなんですけど、新しい技術革新があつて私らはより時間に余裕が、心に余裕ができて幸せになると考えていました。技術革新したら結局それに振り回されて、尚更昔より世知辛くなったり窮屈になつたりとか、急いだりして

こんなはずではなかったということが結構今までもあります。

だから私はこれを否定するわけではなくて、本当にそうならないようにバランスを取って行かないと、気が付いたら一生懸命やって何のためにこんな事、尚更酷いんだけどみたいな、子どもたちも尚更勉強する気が無くなったんだけどみたいなことに。そういう視点をいつも本当にバランス感覚として私は持っていたいし、そういう意味からすると白山市は環境。

コロナで面白い事が起こっていて、自然の方にたくさん人が来るようになりました。3密を防ぐということで、今まで全然いなかった所に休みになったら河原とかでバーベキューとかしています。そういう方向も逆に強くなって来たので、技術革新とかもそうなんです、自然回帰みたいなものも同時に強くなってきているので白山市としてはそちらの方も、特に自然の方に来る人でマナーの悪い人が増えてきて、河原とかにゴミが増えてきている。この問題も教育の問題なので、私はその辺も同時にやって、白山市の持っているものをフルに活かして他の見本になれるように私も役に立てるようにしたい。

#### ○市長(山田 憲昭)

使われるより、使うという事ですね。他にありませんか。

#### ○委員(小寺 正彦)

一つ教えて欲しいことがあります。今までの教育といたたらすべて対面的な教育が必修でしたね。柴山文部科学大臣の時に改革されてすべてが対面でなくても単位があたるとか、そういうのに変わったというのですが、小学校、中学校の場合はコロナで学校に来られなくなった場合、どこまで先生が対面して授業を受けなくてもそういうことが認められるのか。

#### ○学校指導課長(日向 正志)

今のコロナのみならず、対面でなければならぬのかと言われると、実は



小学校でも中学校でも残念ながら不登校で学校に来られないまま卒業していく子もいることは事実です。ですから、義務教育においてこうでなければならないということは必ずしもない。ただ、その子たちにとってはやはり学力の保障というものが十分なされていないという事は当然懸念されるわけなので、その子たちへのフォローというのはやはりしていく必要はあるだろうし、少なくとも文部科学省が学習指導要領の中で示している時数というのが一つの基準と言わざるをえないのかなと思います。1時間足りなかったら次の学年へ進められないのか、とそういうものではないかと思ひますし、今回のコロナの関係でいえばそこまで文部科学省も決め決めではないよ、というようなことを言っておりますけれども、今後不登校の子であるとか、病気で長期入院しなければならない子もオンラインでの学習・学びをすることによって学力の保障を含めた形で対面的ではないかもしれないけれども、オンラインを通じての対面というような中で学力の保障も可能になって行くのではないかなと思います。

**○委員（小寺 正彦）**

ありがとうございます。病気の子どもたちにとってはそれが本当にいいことだと思ったのでお聞きしました。

**○委員（竹内 千恵子）**

先ほど教育長さんから家庭でも学習が出来るようになる。もし情報を掴んでいたら結構なんです、家庭のWi-Fi環境は白山市はどんな状態なんでしょうか。

**○学校指導課長（日向 正志）**

約9割です。

**○学校教育課長（山内 満弘）**

調査しましたら子どもの保護者の方で91%～92%がWi-Fiやインタ

一ネットを有線で見える環境を持っています。残りの8%～9%。台数にしますと小学校が600台で中学校が100ちょっとで770人が8%に該当します。モバイルのルーターを国の方でもコロナ関係の補助制度を設けましたので、補助制度を利用しまして9月補正で募集することを検討しております。ただ問題になるのは、利用するときの接続費用を誰が持つのが1番の問題になっておりまして、誰がどう負担していくのが国の方で示されていないので今後検討が必要です。

○委員（竹内 千恵子）

9割は高い数字ですよ。

○教育部長（毛利 文昭）

携帯も入っていますので、携帯でほとんどパソコンと同じ利用の仕方が出来ますのでそれを入れて91～92%となっております。

○市長（山田 憲昭）

おそらくその8～9%の方々に対しては、市としても教育の機会均等からも貸し与える形になると思います。

---

◎協議事項

○市長（山田 憲昭）

では次に、協議事項（2）「令和4年度以降の成人式の対象年齢や実施時期等」について事務局より説明をお願いいたします。

○生涯学習課長（重吉 聡）

（資料にて説明）

---

◎意見交換

**○市長(山田 憲昭)**

ただ今、事務局からの説明をいただきましたが、このことについてはスケジュールでいうと第2回の総合教育会議で決めるということになるのか。その辺のスケジュール的な所はどうなのか。

**○生涯学習課長(重吉 聡)**

総合教育会議で決定をするということではないです。

**○教育部長(毛利 文昭)**

社会教育委員さんとも協議していくようなことにもなりますから、総合して何らかの形を取りたいと思います。どういう形で最終決定するかというところまでは至っておりません。

**○市長(山田 憲昭)**

この場でもう一回協議するのか。

**○教育部長(毛利 文昭)**

その可能性もあります。

**○市長(山田 憲昭)**

そのスケジュールとか決定の方向を考えておく必要がある。これは議会には報告がいるのか。

**○教育部長(毛利 文昭)**

議会への報告は必要かと思います。

**○市長(山田 憲昭)**

こういう問題があるということで、今回は今後こういった議題が出ますよという報告でいいですか。

○教育部長（毛利 文昭）

こういう形がいいですというようなご意見がありましたらよろしく願います。

○市長（山田 憲昭）

今日、決定ではないですね。何か意見はありませんか。

○教育部長（毛利 文昭）

付随いたしまして、実は今度の成人式、来年の1月10日になりますが、8月以降にそれぞれの地域で実行委員会を立ち上げることになりますが、コロナの関係でどうするか、北海道から九州までの学生がみんなそれぞれの地区に戻って来るという問題があります。今、歯切れの悪い言い方ですけど「こうしよう」というものを白山市は持っておりません。他の市町も同じ悩みを持っています。もう少し状況を見ながらと思ったのですが、この前から東京の方で感染者が増えて来ております。今の東京の状況を見て、東京から地方に成人式に来てくれと言えるかどうかの判断がつかない状況です。いずれにいたしましても、8月いっぱいくらいまでにはある程度の方向を教育委員の皆さんにお知らせしたいと思います。もしどこかで聞かれた際には「検討中」とお伝えいただければありがたいです。よろしく願います。

○市長（山田 憲昭）

今後の様子を見るという事とします。

---

◎その他

○市長（山田 憲昭）

それでは、その他何かありますか。

## ○学校指導課長(日向 正志)

はい、私の方から、コロナの関係で臨時休業が長くありましたので、学校再開後の学校の様子について少しご報告させていただきたいと思います。

長い臨時休業期間を経て6月1日より小中学校が再開されました。学校再開にあたりまして各学校においては感染防止のための身体的距離の確保、マスクの着用、手洗い、また、3密を避けるための工夫、さらには毎朝家庭での体温測定や健康チェック、登校時における児童生徒玄関でのサーモグラフィカメラによる体温の確認等の実施など、さらには多くの児童生徒が触れる箇所の消毒などを行って学校再開が行われております。

子どもたちの様子としては、5月後半の分散登校や、6月再開当初の子どもたちは再開を待ちわびていたということもあり、感染防止に気を付けながらも元気よく学習や活動に取り組む姿が見られました。中には不登校、不登校傾向の子どもたちも頑張って登校する様子があったと聞いております。

しかしながら、子どもたちも保護者もこの臨時休業期間中、相当疲弊していたと聞いたので、早めに保護者や子どもたちの心のケアに努めて懇談を行ってほしいというようなことを校長会議でお伝えし、取り組んでいただいたところ です。

現在、再開約2ヶ月となりますが、子どもたちも職員もちよっと張り切り過ぎた部分もあるのか、やや疲れが出てきているようです。子どもたちの中には、臨時休業期間中の生活リズムの乱れ、それから食生活の乱れ、ある校長先生がおっしゃっていましたが、特にお菓子を多く食べていた、ジュースを多く飲んでいたということがあるんじゃないかということをおっしゃってございました。それから、運動不足等が要因と思われる怪我、これが結構学校の中で多いようです。さらには登校渋りがあるというふうに聞いております。本来ならば現在は夏季休業中に入っているわけですがけれども、現在も6限までの授業を基本としながら学力の保障に努めているところです。

水泳の授業におきましては、保護者・本人の許諾を取るほか、更衣や泳ぐ際の3密をさける、教員が2名以上ついて指導に当たるなどの配慮をしながら実施しているところです。

夏季休業中は期間は短くなりますけれども、この期間プール開放はしない、というふうに各学校から聞いております。これらのことから、子ども達の安全確保、学力保障、また教職員にもかなりの負担も掛かっておることから、消毒等の作業を中心とした、スクールサポートスタッフの配置、大学生による学習サポートの配置をして、今現在取り組んでいるところです。

各種行事についてですけれども、小中学校それぞれ規模や状況等が違いますが、例えば運動会においては保護者の参加というものも非常に問題となるところですが、PTAの方と相談し、3密を回避できるなど安全面が確保できるかどうか検討し、難しい場合は保護者の参観は見合わせていただくということとしております。ほとんどの学校で保護者の参観は見合わせると聞いております。さらに、授業参観やPTA行事などでは多くの保護者が集まり3密になる事が想定されることから、PTAと検討して実施するかどうか、やり方・方法・時間等も工夫をしてできるかどうか検討していただいているところです。

中学校においては部活動の大会が中止になったことから、中学3年生の部活動の終了の区切りをつけるために、代替りの交歓会を先日の4連休を中心に行われました。この交歓会においても、本人・保護者了解のもとでの参加、時間等の短縮、試合方法等を工夫しながら、また、保護者の参観は見合わせていただくという安全面に最大限に配慮しながら実施したところです。それから、中学3年生においては修学旅行というのがございますが、延期してきたわけですが、現在の旅行先、関西方面がほとんどですけれどもこちらの感染状況が非常に厳しい状況を鑑みて、今、各学校の方においては中止等を検討しているところです。今後も各学校において、感染拡大防止に努めながら子ども達の安全確保・学力保障等を行っていきたいと考えております。以上です。

#### ○市長(山田 憲昭)

はい、今、報告がありました再開後の学校の状況につきまして、何か聞きたいこと、意見がございましたらどうぞ。

#### ○教育長(松井 毅)

修学旅行が大体中止の方向ということですが、全く中止になるか、そ

れに代わるようなものがあるのかその辺りもう少し説明をお願いします。

**○学校指導課長(日向 正志)**

はい、先ほどの中学3年生の大会ではないですけれども、代わりの何か出来ないかということも各学校で練っているところです。日帰りで出来ないか、県内で1泊というような形で出来ないかなどというようなことを考えているところです。

**○市長(山田 憲昭)**

その他ありませんか。

**○委員(竹内 千恵子)**

学校が休業中に市内の小学校の校長先生方がメッセージを動画で配信しておりました。あれはとても良かったです。校長先生の性格というか、アイデアがそれぞれあり大変いい取り組みだったと思いました。もっと出来たら良かったのになと思いました。それから、今ほど色々お聞きしました、先生方も大変だろうなと思います。一番大事なことはやはり子どもたちの安心安全ということだろうと思うので、priorityはそこにおいていただいて、いろんな行事を決定していただければいいなと思います。

**○市長(山田 憲昭)**

今、学校もコロナ禍で大変苦勞されている。もう1週間もすると梅雨明けになるとまた、様々な活動も増えてくると思いますので、学校の先生も子ども達もがんばって欲しいなと思います。

それでは予定しておりました議題等が終わりましたので、これで議事の進行を事務局にお戻ししたいと思います。

**○教育総務課長(米木 伸一)**

本日は貴重なご意見どうもありがとうございました。本日協議いただきました議題につきましては皆さまからのご意見を参考に取り組んでまいりたいと思

います。

それでは、これを持ちまして、令和2年度第1回白山市総合教育会議を終了いたします。どうもありがとうございました。

---

閉会 午後5時21分